

2023 年度事業報告書（案）

NPO 法人三段峽－太田川流域研究会

I, 総括

2023 年度のテーマは「シン・さんけん」」として、ビジターセンターの開業を含め、組織の人的資源の拡充に努めた。5 月 3 日にオープンしたビジターセンターは約半年の開館期間に約 4,000 人の来訪があった。会員の方にも多く訪れて頂き、コミュニケーションの場としても機能した。一方でビジターセンターの管理と NPO 法人の運営の両立で事務局にはオーバーワークを強いた。しかし 10 月には地域おこし協力隊の受け入れ、状況は改善している。

2 年ぶりの正面口－黒淵間の開通は嬉しいニュースであったが、三段滝への通行止めもあり、観光客は回復したと言えない状況だ。さらに 2023 年 3 月には水梨口駐車場へ行く林道が土砂崩れのために長期に渡る通行止めとなった。今年度は太田川流域振興交流会議の事業に加え、地元戸河内小学校や広島大学附属小学校や学校法人鶴学園の授業の受け入れなど、三段峽の魅力を子供たちへ伝える取組ができた。また帝釈峽でのエコツアー造成は、帝釈峽関係者との関係性の構築と共に、ツアー造成の技術が評価された。

研究分野ではオオサンショウウオの調査に専門家の協力を得て、流出卵の孵化や幼生の調査などに発展した。峽内の植物調査も継続されている。文化的研究面ではさんけん新聞に 2022 年 12 月より連載されている「セピア写真帖」で過去の写真と現代の比較や発見などが積み重なっている。地域季刊誌「グランデひろしま」での連載は現在の三段峽の見方と写真が掲載され、三段峽のブランディングに貢献している。

観光分野ではお土産品の試作や、広大さんけん部による生き物グッズができた。インバウンド文化体験プログラムの造営や宮島エコツーリズム協議会からエコツーリズムの研修の受け入れがあった。

連携分野では可部の駅前を活性化させるグループと IT 大手企業のサイバーエージェントとの連携、地域商社あきおおたとの協業のスタートなど観光分野でのパートナーが増加した。環境保全では半導体メーカーのマイクロンより寄付と事業連携はスタートした。

「広大さんけん部」は立ち上げの大崎理事など主要なメンバーの卒業があったが、新しく部長に就任した大本武氏を中心に次世代のメンバーが奮闘している。

資料 1-1：2023 年度事業報告（案）

ビジターセンターの開業や地域おこし協力隊の受け入れにより、地域との課題が表面化した年でもあった。顧問の吉田秀政氏は「過去のオーバーツーリズムの弊害」と指摘した。未来の三段峡のために同じ轍を踏まぬように、地域の幸福に資する三段峡として環境面と経済面で多くの住民にとって当地が宝物になるように取り組みを進めたい。